

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 開会

2 議事

（1）岩倉市行政評価委員会の進め方について

【資料1】に基づき、宇佐見グループ長から説明

委員長：疑問点等、意見はあるか。

一同：なし

基本施策18 農業について、岡商工農政課長から説明

基本成果指標及び単位施策①農地の保全・活用について

副委員長：「担い手農家への農地の利用集積率」の指標数値根拠欄に計算式があるが、これほど
のような考え方か。

担当課：農地を保全・振興していく農業振興地域内農用地での耕作が大部分となっているた
め、このような計算式としている。

担い手農家とは、例えば農協のオペレーターのように、大規模に営まれている方の
ことで、今岩倉市内では4人となっている。大規模に経営することによって農地の
保全にも繋がる。

委員：排水機場更新箇所数について、令和7年度の目標値が1か所で、大市場と大山寺が
令和11年度と17年度に竣工予定ということだが、目標値の設定はどのようになっ
ているのか。

担当課：排水機場更新は愛知県の事業であり、大市場町にある排水機場については令和7年
度に竣工する予定で目標値を1としていたが、国の補助金が見込みより少なく当初
の計画どおり進んでいないために竣工時期が伸びている状況である。

委員：基本成果指標について、令和6年度に調査をされてないということだが、何年ごと
に調査するものなのか。

事務局：ここでは指標数値根拠が市民意向調査となっている。5年に一度、市民意向調査を
行っているが、間隔が開きすぎるため、総合計画の進捗を測るための市民アンケー
ト調査を2年に一度実施している。この2種類の調査で数字を得ている。アンケー
ト調査を始めた当初は毎年行う予定であったが、無作為抽出ではあるものの、「また
アンケートか」というご意見も多かった。また、市が行う調査はこのアンケート以
外にも多くあり、期間が重なりすぎても回答率が下がるため、現在は5年サイクル
の市民意向調査か、おおむね2年に1度の市民アンケート調査のどちらかで測って
いくことになっている。

委員：市民意向調査と市民アンケートでは、質問の仕方や回答の選択肢の種類はほとんど
同じなのか。

事務局：基本的には同じになるように作成しているが、一字一句同じでないものもある。

委員：読み手の解釈の違いによって数値が変わる可能性もあり得るということか。

事務局：多少解釈の違いもあると思われる。毎回対象者を無作為抽出しているため回答者も異なる。全体として割合を出したときに大きな誤差はないと考えている。

委員長：新規就農された方々はどのような作物を作っているのか。

担当課：稲作が1人。露地で野菜を作られている方が3人。

委員長：では、評価をしていただきたい。…B評価が10人
B評価とする。

単位施策②担い手農家の育成と経営支援について、岡商工農政課長から説明

委員：担い手農家について質問。祖父母が農家をやっていたが、高齢化によりやめた。畑と田んぼが余っているため、私は農業を始めたいと思っているが、相談できる人がおらず、どこに行けば相談に乗ってもらえるかわからない。

担当課：農業の始め方については、農協の営農指導員に繋いだり、地元の農家に教えてもらえないか橋渡しをしている。全てのことを市で解決できるかはわからないが、営農について困りごとがあれば、まずは商工農政課にご相談いただきたい。

委員：農業を始めたいと思ったら、まずは市役所まで相談すればよいのか。

担当課：そのとおり。県の機関を紹介することもできる。

委員長：市に相談して始める場合は、新規就農にはならないのか。

担当課：初めて農業を行う人で、農家認定を受けていない人が新規就農者になる。

担当課：新規就農を認定するにあたっては研修を受けていただく必要がある。また、所有している農地を活用したいということであれば、方法が異なる。

委員長：愛知県では新規就農に認定されるには面積要件があるのか。

担当課：今は面積の要件は無くなった。農業大学校での研修、研修施設での1～2年の研修を経て新規就農者になれる。

副委員長：担い手農家の数における実績値に対する分析について、経営体が3つ減って4つ増えたとあるが、増減の理由をお聞きしたい。

担当課：減少した理由の一つは農家の方が亡くなられたため。増加の理由については、新規で就農した方が増加したため。元農協職員の方の水稲、露地野菜の方、パパイヤを栽培している方、そのうちの一人は農業体験塾で経験を積み農家になられた方である。一定数はキープできている状況。

副委員長：農協OBの方は60代か。

担当課：40代と50代の方。水稲の担い手農家4人のうち、2人は70歳以上、他の2人は40代と50代。全員大規模に行っている方のため、70歳代の2人が引退されると数字が大幅に下がってしまう恐れがある。

委員長：新規就農の方は、営農資金の援助または所得補償が選択できるのか。

担当課：そのとおり。所得補償を選択する人が多い。3年間利用可能で、年間150万円。

委員長：評価をしていただく。…B評価が10人

B評価とする。

単位施策③地産地消型農業の推進について、岡商工農政課長から説明

委員 長：学校給食における地場農産物の使用割合について、増加していない原因として何が課題だと考えているか。

担当 課：まず農産物を作っている農家の数が少ないという前提がある。また、一定の量が必要であることに加え、出荷時期の指定がある点が難しい。天候不順などが発生した場合、指定の数を用意できないというところが一番の原因だと考えている。

委員 長：岩倉市は自校給食ではなく、給食の管理は給食センターが行っているのか。

事務局：そのとおり。令和6年度は食材の物価高騰が著しいことに加えて、給食全体の栄養バランスを考える必要があるため、地元産の食材を使いたくても使えない状況だと聞いている。

委員 員：学校給食ではなく、調理実習の食材を地場産に置き換えられないのか。

担当 課：五条川小学校では今年度春から花壇でちっちゃい菜を育てており、それを調理実習で調理して食べたと聞いている。

委員 員：学校給食における地場農産物の使用割合について、目標値は高いのか。また、目標設定当時の状況と現在の状況は大きく異なっているのか。

担当 課：状況の変化はあまり感じないが、協力農家の数が減っているため目標達成は難しい。

委員 員：学校給食の食材調達についてお聞きする。少しでも目標値に近づけるために、日ごとに地場食材の割合を変えるなどの工夫はできないのか。

担当 課：学校給食センターから依頼がくるが、依頼量はその日の野菜の全量なのか、依頼元の状況は担当課ではわからない。また、効率化の観点から発注を細かく分けられないという事情もある。

委員 長：給食は1か月単位で献立がきっちりと決められているため融通がきかせづらい面もある。

委員 長：食育推進を担当している部署はどこになるのか。

担当 課：健康課が所管している。

委員 長：評価をしていただく。…B評価が10人。

B評価とする。

単位施策④名古屋コーチンの消費拡大について、岡商工農政課長から説明

委員 長：意見等があれば挙手をお願いしたい。

委員 員：岩倉の学校給食に名古屋コーチンはでないのか。

事務局：学校教育課と相談をしているが予算の関係で難しい。

委員 員：給食を食べて子どもが気に入れば、親の購買に繋がるため貴重な機会となる。

委員 員：現在給食は1食いくら程度なのか。

事務局：保護者負担額は小学校が270円、中学校が300円。

委員：「岩倉特産の名古屋コーチンを知っている市民の割合」について、実績値が減っている原因は取り扱う店が減っているからか。

担当課：取り扱い店舗は減っている。また、スーパーに並べるなどの日常提供も難しいため認知度が低い結果となっている。

委員長：食べたことがある人ではなく、知っている人が減っているという結果が出ているというのは、何か原因があるのかもしれない。

委員：結果については、アンケートの聞き方によるのではないか。「岩倉の特産品」として名古屋コーチンを知っているか、という質問の仕方をしたため知らないと回答した人が多いのだと感じる。

委員：振興組合の会員になるために、加盟費用がかかるのか。

担当課：加盟費用については確認しておく。

委員長：過去には「コーチンまん」をいわくら塾が作られていた。

委員：市内で名古屋コーチンを専門として提供している店は何店舗あるのか。

担当課：専門ではないが、名古屋コーチンを提供しているお店は2店舗ある。

委員：取り扱い店舗の数には精肉店が含まれているのか。また、名古屋コーチンの卵は含まれているのか。

担当課：鳥勝が精肉店として含まれている。現在、名古屋コーチンの卵を常時販売している店舗はないと把握している。

委員長：それでは、評価をしていただく。…C評価が6人、D評価が4人
C評価とする。

副委員長：賛助会員も増えており数値もそこまで下がっていないため、C評価が適切と判断した。

基本施策19 商工業について、岡商工農政課長から説明

基本成果指標及び単位施策①既存の事業所への支援について

委員：基本成果指標、市内事業者数の実績値に対する分析で「経済活動の活発化について」という記述があるが、実際に統計があったのか。

担当課：具体的な統計ではなく、周りの状況を見て活発化していると判断した。

委員：就職説明会を1回開くとどれくらいの参加者がいるのか。

担当課：令和6年度岩倉市で開催した就職説明会には46人が参加し若者が多かった。事業所については犬山市、江南市、岩倉市、大口町、扶桑町で計40社であり、最終的には2人が採用に繋がった。昨年度江南市で実施した際は、90人の参加があり高齢者が多かった。企業からは高評価をいただいた。

委員：成果指標のビジネスサポートセンターの利用件数について、令和4年度が418件と多い理由は、時期的に新型コロナへの対応に関連したものが多いためからか。

担当課：商工会がビジネスサポートセンターの周知を積極的に行っていたため、令和4年度は特に多かった。継続して周知を行っている。

担当課：がんばる中小企業等応援補助金は、令和3年6月から始まった制度で、令和4年度には利用も多く、補正予算も組んだ。

委員：マッチングの成就率はどの程度なのか。

担当課：マッチング後に行うアンケート調査の回答数が少ないため、正確な数字が把握できていない。

副委員長：マッチングの意義があるのか。マッチングの時期などもっと効果的な方法がないのか。

担当課：企業見学、インターンシップなど様々なメニューで企業とのつながりを構築している。

委員：新卒採用と中途採用とで、合同で行っているがこれらは分けられないのか。

担当課：採用企業は新卒にこだわらず人材を集めたいため、今のところ分ける予定はない。

委員：参加者はあまり魅力を感じられていないのではないのか。

委員：ママジョブあいちを利用したことがある。県から派遣されたスタッフということもあり、市内や近隣で働けるところを希望しているのに、名古屋の大手企業を紹介されたことが残念だった。

担当課：ママジョブあいちとも相談させていただく。

委員長：情報提供も必要。岩倉ものづくり FOCUS、わくワークいわくらについて高校生からの反応はあったのか。

担当課：今回は岩倉総合高校の生徒が参加して、一部ではあるが取材や記事作成をしていただいた。身近な存在が作成に関わっていただいたことで、学校や他の生徒にも伝わるものがあつたと思う。

委員長：評価をしていただく。…B評価が9人、C評価が1人
B評価とする。

委員：より就職しやすいように、中身を改善するところはないのかと考えてC評価とした。

単位施策②創業支援・企業誘致について、岡商工農政課長から説明

委員長：取り組み内容の評価について、(2)とあるが(1)としない理由はあるのか。

担当課：創業支援の取り組みをもう少しできたのではないかと考えているため(2)とした。

副委員長：創業の相談件数について、実際に相談から創業まで繋がる件数はどのくらいか。

担当課：相談件数の19件には創業後間もない人からの相談も含んでおり、うち11件は創業済みである。

委員：創業された方々の年齢層はどのあたりか。

担当課：現在年齢層までは把握できていないが、今後は把握していく。創業支援セミナーの参加者には若者が多い印象だ。

副委員長：創業の業種内訳はわかるのか。

担当課：11件のうち、小売り2件、建設が1件、製造が1件、その他サービス業でネイルサロンやエステなどがある。

委員長：それでは評価していただく。…A評価が1人、B評価が9人
B評価とする。

基本施策 20 観光・交流について、岡商工農政課長から説明

基本成果指標及び単位施策①観光PR・イベント等の充実について

委員：桜まつり等の来場者数の分析について、見直し後の来場者減少は予想と比較して大きかったのか。

担当課：来場者数の減少については予想より小さい結果となった。露店の出店を土日のみとし、出店日数も10日間から4日間に変更した。

委員：のんびり桜を見る本来の開催方法である。長期的な視点で考えると、変更後のやり方がよいと感じる。

委員：お祭りの来場者数はどのように集計しているのか。

担当課：会場にて一定時間集計を行ったり、名鉄の岩倉駅、大山寺駅、石仏駅など、乗降者数などを基にこれまでの数字と比較しながら、推計値を計算している。それらの数字を合計して来場者数としている。

委員長：推計した値ならば、一桁まで細かく記載しない方がよいのではないか。

担当課：来場者数の合計には、人数が把握できるイベントでカウントしたものが含まれているため細かい数字が出る。

委員長：評価をしていただく。…B評価が10人
B評価とする。

単位施策②地域間交流の推進について、岡商工農政課長から説明

委員長：意見等があれば挙手をお願いしたい。

委員：大野市との交流について、小学生の娘たちは知らないと言うが、遠足などはないのか。

事務局：遠いため遠足では行っていない。

委員長：交流事業の種類・数を増やしたいという考えがあるのか。市の行う特定の事業以外に日常で交流が行われるような取組はあるのか。

担当課：大野市への宿泊費の助成を行っているが、日常的に足を運んでもらうような直接的な取り組みはできていない。

委員：大野市側の積極性はどうか。

担当課：直接的に話すことがあまりないが、大野市民で桜まつりに来てもらえる人も多い。

委員長：助成事業の助成件数について、年間でどの程度の規模なのか。

担当課：令和5年度は53人と1棟、令和6年度は60人。

委員長：では、評価をしていただく。…B評価が10人
B評価とする。

基本施策 14 移動環境について、井手上企画財政課長から説明

基本成果指標及び単位施策①公共交通の利便性の向上について

委員：路線バスの現状値に対して目標値が低いのはなぜか。

担当課：策定当時にここまで伸びないと予想して設定したのではないかと考える。今年度の総

合計画中間見直しにおいて、12年度の目標値を90%に上方修正する予定。

委員：川井野寄地区の工業団地ができたことによる、会社からバス路線延長などの要望は挙がっていないのか。

担当課：現時点で要望は受けてはいない。今年の5月、朝8時頃に、大山寺駅にて現地調査を行ったが、川井・野寄地区方面に自転車・徒歩で向かう人はあまりいなかった。

委員：ほとんど自家用車での通勤が多いということか。

担当課：要望が多ければ検討の余地があると考えている。

委員長：では、評価をしていただく。…B評価が10人。
B評価とする。

単位施策②安全で快適な道路環境の整備・維持管理について、井手上企画財政課長から説明

副委員長：個別施策④「歩行空間のユニバーサルデザインの導入」基本成果指標の「安全で快適に移動できる道路環境が整備されていると感じる市民の割合」は減少傾向にあるが、担当課からお気づきの点はあるか。

担当課：「安全で快適」という言葉の印象から、舗装の状態を連想する人が多く、割合が下がっているのではないかと考察する。

副委員長：高齢化が進行し徒歩での移動が増加しており、道路環境の満足度等を測る上で歩行空間をイメージすることが増加することが考えられるが、成果指標など評価の重心が車道の整備等に傾いていると感じる。

委員長：ご指摘のとおり。年代別の満足度を見てみたい。

担当課：年代別のデータは保有している。

委員：桜通線について、ひととおり整備は終わったと考えてよいのか。

担当課：まだ終わっておらず、用地買収も5件程度残っている。店舗、民家、駐車場など。支障物件の移転補償などが課題。

委員：適切な代替地はないのか。

担当課：条件に合致する土地を見つけられない。

委員長：評価をしていただく。…B評価が10人
B評価とする。

単位施策31 行政経営・財政運営について、井手上企画財政課長から説明

基本成果指標及び単位施策①計画的な行政運営の推進について

副委員長：計画を立てている以上目標値は100%となるため、庁内評価全体で見ると未達成は避けられない。例えばお祭り来場者数について、目標値を達成はしていないが長期的な視点で見ると正しい方向に向かっていると言える。機械的に評価をつけると、達成できなかったものの1つになってしまう。評価や結果の解釈方法については丁寧に言うほうがよいと感じる。

委員長：評価をしていただく。…B評価が6人、C評価が4人。

B評価とする。

単位施策②効率的で満足度の高い行政サービスの運営について、井手上企画財政課長から説明

委員：オンラインの手続き件数について、目標値を達成しているが今後どの程度増やせる見込みなのか。

担当課：総合計画の見直しを進めており、その中で300件に上方修正を行う予定。

委員長：岩倉市単独のシステムを利用する件数ではなく、他の広域での共通システムのようなものも含めての件数ということでしょうか。

担当課：そのとおり。

委員長：広域での電力の共同調達は素晴らしい取り組みだと思う。

副委員長：2市3町の広域連携の組み合わせについて、電力供給地域と関係があるのか。

事務局：特に関係はない。できるところで協力していこうという考え。

委員長：評価をしていただく。…B評価が10人。

B評価とする。

単位施策③公共施設等の総合的かつ計画的な管理について

行政改革行動計画の実施評価において説明・評価とも実施済みのため省略。

行政改革行動計画と同様C評価とする。

単位施策④安定した財政運営について、井手上企画財政課長から説明

委員長：単位施策の評価指標2つ目経常収支率の評価Ⅳについて、分子には人件費や扶助費が含まれ、岩倉市の頑張りだけではどうにもならない要素もあるのでは。

副委員長：厳しい評価だと感じる。

委員長：経常収支比率は93.0%という数値はかなり厳しい状態の数値であり、この数値までは大丈夫というものではないと考えればこのような評価になる。

委員長：評価をしていただく。…B評価が1人、C評価が9人。

C評価とする。

委員：93.0%以内に収まっていることは評価してもいいのではないかと思います、B評価とした。

委員長：本日は以上とする。

(3) その他

次回10月21日(火)午後2時から、場所は第2・3委員会室で行う。